［招待論文：総説・レビュー論文］

ケアリングの概説
Overview of Caring

筒井 真優美
日本赤十字看護大学名誉教授・特任教授 / 国際交流センター長
Mayumi Tsutsui
Emeritus Professor, Japanese Red Cross College of Nursing /
Director of International Collaboration Center

Abstract:　ケアリングは理論家により、さまざまに定義されている。概念分析では、ケアリングにはケア提供者の知識・技・態度、環境が必要であり、ケアリングにより、人々に癒しや安寧がもたらされるだけでなく、ケア提供者にも癒しがもたらされ、ケアリング環境も創造されることが示唆された。本稿では、ケアリングの動向、定義、背景、研究などを概観した。

Caring has many definitions which were deferent by theorists. However, there seems to be some similarities through the content analysis. The antecedents were knowledge, art and attitude of nursing, and environment. The consequences were wellbeing of clients, family and nurses, and caring environment. Caring trend, definition, background, research and so on were discussed.

Keywords: ケアリング、看護学、癒し
caring , nursing science, healing

はじめに―ケアリングの概説

ケアリングに関する著書、研究、測定用具、講演は増加し続けているが、ケアリングが看護の本質であるとされながらも、定義が多様なまま、歳月が経過した。ケアリングは、関心、気遣いなどの精神的な関わりとして考えられることも多いが、M. メイヤロフ（M. Mayeroff）をはじめとするケアリング理論家は、ケアリングにはケア提供者の能力、知識・技術が重要であると述べている。

看護学の目的は、人間の健康と安寧であると多くの看護理論家は述べている（筒井 , 2015a; 筒井, 2015b）。看護学におけるケアリングの目的も同様であるが、ケアリングは相互関係であり、ケアリングを提供された人々だけでなく、

ケア提供者の看護師も癒されることが明らかにされている（筒井 , 2011b）。また、近年はケアリング環境が創造される研究結果も増加している（山内、筒井 , 2011）。

1　ケアリングの動向

ケアリングという用語が注目され始めたのは、哲学者 M. メイヤロフ（M. Mayeroff）の「ケアの本質 On Caring　1971 年」が出版されてからであり、その後、表 1 のようにケアリングに関する文献が刊行され、学会も開催されている。

1978 年に M. レイニンガー（M. Leininger）の呼びかけでヒューマンケアリング学会の研究会が始まり、1989 年に J. ワトソン（J. Watson）、D. A. Gaut ら

表 1　ケアリングに関する文献発刊の年表

1970 年代 ----------

Mayeroff, M. (1971)　田村真、向野宣之訳 (1987)『ケアの本質－生きることの意味』ゆみる出版 .

Leininger, M. M. ed. (1978) *Transcultural nursing: Concepts, Theories and Practice*. New York: John Wiley & Sons. (Reprinted in 1994 by Greyden Press, Columbus, OH.)

1978 年　ヒューマンケアリング学会の研究会 .

Watson, J. (1979) *Nursing: The Philosophy and Science of Caring*. Boston: Little Brown. (Reprinted. 1985/88 Colorado Assoc. Univ. Press.)

1980 年代 ----------

Gilligan, C.（1982）　岩男寿美子監訳 (1986)『もうひとつの声－男女の道徳観のちがいと女性のアイデンティティ』川島書店 .

Gaut, D. A. (1983) “Development of a theoretically adequate description of caring”, *Western Journal of Nursing Research*. 5(4), pp. 313-324.

Benner, P. (1984)　井部俊子、井村真澄、上泉和子訳 (1992)『ベナー看護論－達人ナースの卓越性とパワー』医学書院 .

Noddings, N. (1984)　立山善康、林泰成、清水重樹、宮崎宏志、新茂之訳 (1997)『ケアリング　倫理と道徳の教育－女性の観点から』晃洋書房 .

Watson, J. (1985) *Nursing: The philosophy and science of caring*. Boulder, CO: Colorado Associated University Press.

Benner, P. & Wrubel, J. (1989) *The primacy of caring: Stress and coping in health and illness*. Menlo Park, CA: Addison-Wesley Publishing Company.

Benner, P. & Wrubel, J. (1989)　難波卓志訳（1999）『ベナー／ルーベル　現象学的人間

論と看護』医学書院 .
Bevis, E. O. & Watson, J. (1989)　安酸史子監訳（1999）『ケアリングカリキュラムー看護教育の新しいパラダイム』医学書院 .
Ray, M. A. (1989) “The theory of bureaucratic caring for nursing practice in the organizational culture”, *Nursing Administration Quarterly*. 13(2), pp. 31-42.
Ray, M. A.（1989）　清真佐子、吉田智美、筒井真優美訳（1993）「組織文化における看護実践のためのビューロクラティック・ケアリングの理論」『看護研究』26(1), pp. 14-24.
1989 年　ヒューマンケアリング学会　国際学会 .
1989 年　日本看護科学学会　国際看護学術セミナー「ヒューマンケアリングと看護」.

1990 年代 ----------
Morse, J. M., Solberg, S. M., Neander, W. L., Bottorff, J. L., & Johnson, J. L. (1990) “Concepts of caring and caring as a concept”, *Advance Nursing Science*. 13(1), pp. 1-14.
Nyberg, J. (1990) “Theoretic explorations of human care and economics: Foundations of nursing administration practice”, *Advances in Nursing Science*, 13(1), pp. 74-84.
水野治太郎 (1991)『ケアの人間学ー成熟社会がひらく地平』ゆみる出版 .
Morse, J. M., Bottorff, J., Neander, W. L., & Solberg, S. (1991) “Comparative analysis of conceptualizations and theories of caring”, *IMAGE: Journal of Nursing Scholarship*. 23(2), pp. 119-126.
Leininger, M. M. ed. (1991) *Culture care diversity & universality: A theory of nursing*. New York, NY: National League for Nursing Press.
Leininger, M. M. ed. (1991)　稲岡文昭監訳 (1995)『レイニンガー看護論ー文化ケアの多様性と普遍性』医学書院 .
Smith, P. (1992)　武井麻子、前田泰樹監訳 (2000)『感情労働としての看護』ゆみる出版 .
Roach, M. S. (1992)　鈴木智之、操華子、森岡崇訳 (1996)『アクト・オブ・ケアリングーケアする存在としての人間』ゆみる出版 .
1992 年 日本看護学会国際看護学術集会「ヒューマンケアリング」.
Swanson, K. M. (1993) “Nursing as informed caring for the well-being of others”, *IMAGE: Journal of Nursing Scholarship*. 25(3), pp. 352-357.
Montgomery, C. L. (1993)　神郡博、濱畑章子訳 (1995)『ケアリングの理論と実践ーコミュニケーションによる癒し』医学書院 .
1993 年 『看護研究』26(1)　特集：看護におけるケアリングの概念
Fry, S. (1994)　片田範子、山本あい子訳 (1998)『看護実践の倫理』日本看護協会出版会 .
Kuhse, H. (1997)　竹内徹、村上弥生監訳 (2000)『ケアリングー看護婦・女性・倫理』メディカ出版 .
Fry, S.（1998）豊島佳子監修 (1998)「倫理の概要」『インターナショナルナーシングレビュー』21(5), pp. 18-25.
石川道夫、田辺稔編集 (1998)『ケアリングのかたちーこころ・からだ・いのち』中央法規出版株式会社 .
Noddings, N. (1998)　宮寺晃夫監訳 (2006)『教育の哲学　ソクラテスから＜ケアリング＞まで』世界思想社 .
Smith, M.C. (1999) “Caring and the science of unitary human Beings”, *Advance in Nursing Science*. 21(4), pp. 14-28.
Benner, P., Hooper-Kyriakidis, P. L., & Stannard, D. (1999)　井上智子監訳 (2005)『ベナー

看護ケアの臨床知－行動しつつ考えること』医学書院 .
Watson, J. (1999)　川野雅資、長谷川浩訳 (2005)『ワトソン　21 世紀の看護論：ポストモダン看護とポストモダンを超えて』日本看護協会出版会 .
Watson, J. (1999) *Postmodern nursing and beyond*. Edinburgh: Churchill Livingstone.

2000 年代 ----------
筒井真優美（2000)「看護におけるケアリングと癒しの工夫」小島操子、青山ヒフミ編『看護のコツと落とし穴①看護技術』中山書店 , pp. 116-117.
森村修 (2000)『ケアの倫理』大修館書店 .
Boykin, A. & Schoenhofer, S. O. (2000)　多田敏子・谷岡哲也監訳 (2005)『ケアリングとしての看護－新しい実践のためのモデル』ふくろう出版 .
広井良典 (2000)『越境するケアへ』医学書院 .
Benner, P. (2001)　井部俊子監訳 (2005)『ベナー看護論　新訳版－初心者から達人へ』医学書院 .
Watson, J. (2001)　筒井真優美監訳 (2003)『ワトソン　看護におけるケアリングの探究－手がかりとしての測定用具』日本看護協会出版会 .
Eriksson, K. (2002) “Caring science in a new key”, *Nursing Science Quarterly*. 15(1), pp. 61-65.
江藤裕之 (2002)「care と cure について」『Quality Nursing』8(9), pp. 773-779.
中野啓明 (2002)『教育的ケアリングの研究』樹村房 .
Benner, P. 編著 (2004)　早野真佐子訳 (2004)『 エキスパートナースとの対話』昭林社 .
石川道夫編著 (2005)『ケアリングのとき－こころと手』中央法規出版株式会社 .
Watson, J. (2005) *Caring science as sacred science*. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company.
江藤裕之 (2005)『看護・言語・コンセプト』文光堂 .
Locsin, R. C. (2005)　谷岡哲也、上野修一、安原由子、大阪京子、真野元四郎、高橋みどり監訳（2009)『現代の看護におけるケアリングとしての技術力 第 3 版』ふくろう出版 .
根村直美編著（2005)『ジェンダーと交差する健康 / 身体（健康とジェンダーⅢ)』明石書店 .
Picard, C. & Jones, D. ed.(2005)　遠藤恵美子監訳 (2013)『ケアリング　プラクシス』すぴか書房 .
葛西康子 (2006)『青年期を生きる精神障害者へのケアリング』北海道大学出版会 .
中野啓明、伊藤博美、立山義康編著 (2006)『ケアリングの現在－倫理・教育・看護・福祉の境界を越えて』晃洋書房 .
筒井真優美編著（2008)『看護理論―看護理論 20 の理解と実践への応用』南江堂 .
広井良典 (2008)『ケアのゆくえ　科学のゆくえ . 終章』岩波書店 .
吉原恵子、広岡義之 (2011)『ケアリング研究へのいざない　理論と実践』風間書房 .
2011 年 『看護研究』44(2)　特集：看護におけるケアリングの現在
2012 年 3 月　Watson を名誉会長とする第 1 回 国際ケアリング学会（広島）
2015 年 5 月　ヒューマンケアリング学会（京都）
2015 年 10 月　第 2 回 国際ケアリング学会（東京）
2017 年 3 月　第 3 回 国際ケアリング学会（福岡県久留米市）
2019 年 9 月　第 4 回 国際ケアリング学会（東京）予定
丹木博一 (2016)『命の生成とケアリング』ナカニシヤ出版 .

注：筒井真優美 (2011b). pp. 116-117 の表に加筆

の看護学者を中心にヒューマンケアリング学会が国際学会に発展し、2015 年 5 月に初めて日本（京都）で開催された。また、1995 年、2003 年のアメリカ看護師協会「看護の社会政策声明」の中で、ケアリングが含まれた。

CINAHL Plus with Full Text における 1980 年から 2009 年までの「Caring & Nursing」に関する文献数は、1980 年代は約 680 だったが、1990 年代には約 4000 となり、2000 年代には約 6600 と急激に増加し、ケアリングが人々を癒すことが明らかにされた（山内、筒井 , 2011）。

また、ケアリングを量的に測定することが可能かという疑問を残しながらも 21 の測定用具が開発された（Watson, 2001/2003）。研究内容も患者―看護師関係、学生―教師関係だけでなく、文化、組織など環境への広がりを持ち始めた（筒井 , 2011b; 山内、筒井 , 2011）。

日本では 1990 年以降、ケアリングの 3 大理論家である J. ワトソン（J. Watson）、M. レイニンガー（M. Leininger）、P. ベナー（P. Benner）の来日によって、ケアリングへの理解が深まり、看護系大学の教育理念にケアリングが標榜されるようになった。ケアリングは日本の看護師国家試験出題基準にも組み込まれ、ケアリングをテーマにした講演が看護学会、病院看護部で取り上げられることが多くなった。

1989 年に日本看護科学学会第 1 回国際看護学術セミナー「ヒューマンケアリングと看護」が開催され、1992 年には「ヒューマンケアリング」のテーマで国際看護学術集会が開催された。2012 年 3 月 J. ワトソン（J. Watson）を名誉会長とする国際ケアリング学会が広島で、第 2 回が 2015 年 10 月東京で、第 3 回が 2017 年 3 月福岡県久留米市で開催され、第 4 回は 2019 年 9 月に開催される予定である。

また、ケアリングの特集が『看護研究』で、1993 年（vol. 26 no. 11）、2011 年（vol. 44 no. 2）、2012 年（vol. 45 no. 6）に組まれた。

2　ケアリングの定義

ケアリングは教育学、生命倫理学、発達心理学においても用いられており、定義は様々である（表 2）。ケアリングは 2 つの意味に大別でき、一つは「心配」「気遣い」「何かに専念する」といった感情の動きを主に表すものであ

表２　ケアリングの定義

人名	ケアリングの定義
Mayeroff, M. (1971/1987) 哲学	相手をケアすること、相手の成長を援助することによって、自分もまた自己実現する結果になる。 ケアには知識が必要でないとか、誰かをケアすることは単に好意や温かい関心を示すことだけであるかのように言うことがあるが、誰かをケアするためには多くのことを知る必要がある。また、ケアをしようとするならば、その相手にふさわしい能力と相手をケアできるだけの力がなければならない。
Leininger, M. (1978) 看護学	人間の条件や生活様式を改善したり高めようとする、あるいは死に対処しようとする明白なニードあるいは予測されるニードを持つ個人あるいは集団を援助したり、支持したり、あるいは能力を与えたりすることを目ざす行為および活動を意味する。
Watson, J. (1979) 看護学	看護の核として、10 のケア因子をあげている。 1 番目は、「人間性利他主義 (Humanistic-Altruistic values)」、 2 番目は、「信頼と希望 (Faith and Hope) 」、 3 番目は、「自己と他者へ敏感 (sensitivity to self and others)」、 4 番目は、「援助・信頼・ケアリングの関係 (helping-trusting-caring relationships)」、 5 番目は、「状況の中で、プラスとマイナスの感情表現をする他者を助ける (Helping the other with expression of positive and negative feelings around their situation)」、 6 番目は、「創造的な問題解決のケアリング・プロセス (Creative-Problem-solving Caring Process)」、 7 番目は、「教育と学習 (teaching and learning)」、 8 番目は、「支持的、保護的、矯正的環境に参加すること (Attending to supportive/protective/ and/or corrective environment)」である。「環境としての看護師」を意識することで、環境を変えることができ、看護師はケアリングの場になる。 9 番目は、「人間のニーズを満たす (gratification of human needs)」、 10 番目は、「実存的、現象学的、魂の次元に広げること (Allowing for existential-phenomenological and spiritual dimensions)」である。
Gilligan, C. (1982/1986) 発達心理学	人生は、どんなにそれ自体価値があるにせよ、人間関係のなかでの心配りによってのみ維持される。
Gaut, D. A. (1983) 看護学	S が X をケアリングしているといえるのは下記の 5 つの状況のときである。
	第一の状況　S は X をケアするニーズに気づいていなければならない (awareness)。
	第二の状況　S は状況を改善するためのいくつかのことを知っている (knowledge)。
	第三の状況　S は何かを X のためにするつもりである (intention)。（援助する意思をもつ）。
	第四の状況　X に肯定的な変化を起こす行動を選択する (means for positive change)。
	第五の状況　X の肯定的な変化は何が X にとってよかったかによって評価する (welfare- of-X criterion)。
	ケアリングに関して 3 つの意味、1) 注意と関心、2) 相手に対する責任や提供、3) 敬意、好意、愛着

Noddings, N. (1984/1997) 教育学	ケアリングには二つの特徴があり、ひとつはケアする人は専心 (engrossment) と呼ぶ特別な仕方でケアされる人に注意を向けている。もうひとつは他者の中に存在するものを受け入れながら、私たちは自分のエネルギーが他者の苦境や企みに向かって流れていくのを感じることである。
Benner, P. (1984/1992) 看護学	ケアリング実践は「わざ的 artful」である一方で、相応の知識が必要であり、救命的な実践なのである。
Mrose, J. M. et al. (1990) 看護学	5 つのカテゴリーは 1)人間の特性(A human trait)、2)道徳的責務 (A moral imperative)、3) 感情 (An affect)、4) 看護師－患者の人間関係 (An interpersonal relationship)、5) 治療的介入 (A therapeutic intervention) で、ケアリングの結果は 1) 患者の主観的体験、2) 患者の身体的反応、3) 看護師の主観的体験である。
Nyberg, J. (1990) 看護学	ケアリングは人への関心から始まり、知識を通して、人が存在すること、成長することを援助する感情とコミットメントへと発展する。
Roach, M. S. (1992/1996) 看護学	ケアリングの属性は思いやり (Compassion)、能力 (Competence)、信頼 (Confidence)、良心 (Conscience) そしてコミットメント (Commitment) である。
Swanson, K. M. (1993) 看護学	ケアリングは 1) 信念を維持する (Maintaining Belief)、2) 知る (Knowing)、3) 共にいる (Being with)、4) 何かをする (Doing for)、5) 力を与える (Enabling) の 5 つのプロセスを経てクライエントの安寧となる。
Montgomery, C. L. (1993/1995) 看護学	・ケア提供者の資質には 7 つの特性が含まれる。1) 役割志向よりも個人志向、2) 保健医療における人間的要素への配慮、3) 人間中心の意図、4) 卓越した判断力、5) 希望的志向、6) 利己的なかかわりのないこと、7) 個人的な境界の拡大である。
	・ケアリングの関係のあり方には、1) 深い情動的なかかわり、2) 自己認識と自己の目的的活用、3) 相互主観性、4) 美的感覚、5) 超越性の 5 つの側面がある。
Kuhse, H. (1997/2000) 生命倫理学	ケアリングは受容性と感受性（反応する能力）の気質を備えたケア (dispositional care) である。
Boykin, A. & Schoenhofer, S. O. (2000/2005) 看護学	ケアリングはプロセスであり、生涯を通して、人はケアリングを行動に表すことで成長する。
Erriksson, K. (2002) 看護学	ケアリングには思いやりと人間愛が重要であり、ケアリングは人々の苦痛を軽減し、生活と健康を守り予防するものである。

注：筒井真優美 (2011b). p.120 の表 4 に加筆

り、もうひとつは「世話をする」など他者への行為を表すものである (Kuhse, 1997/2000)。

M. メイヤロフ (M. Mayeroff) は哲学者として、ケアリングを定義し、J. ワトソン (J. Watson)、M. レイニンガー (M. Leininger)、P. ベナー (P. Benner) らはケアリングを看護学の中心概念として認め、この概念を理論のレベルにまで発展させている (Montgomery, 1993/1995)。

2.1　M. メイヤロフ (M. Mayeroff)

1925 年にニューヨーク市で生まれ、ニューヨーク大学で学士と修士号、コロンビア大学で博士号を取得し、『ケアの本質』を出版した。1971 年にはニューヨーク州の州立大学における哲学の教授であった。

ケアの主な要素として、知識、リズムを変えること、忍耐、正直、信頼、謙虚、希望、勇気の八つを挙げ、ケアの主要な特質として、ケアを通しての自己実現、過程の第一義的重要性、ケアする能力と受容する能力、ケアの対象が変わらないこと、ケアにおける自責感、ケアの相互性、ケアであるといえる範囲の七つについて説明している。

M. メイヤロフ (M. Mayeroff) (1971/1987) は、ケアリングは単に相手に関心を示すだけでなく、相手をケアするには多くのことを知り、知識が必要であり、その相手にふさわしい能力と、相手をケアできるだけの力がなければならないことを強調している。また、相手の成長を援助することによって、ケアリング提供者も自己実現すると述べ、ケアリングは相互関係であることを示唆し、多くのケアリング理論家の源泉となっている。

2.2　M. レイニンガー (M. Leininger)

1930 年米国ネブラスカ州で生まれ、ニューギニアのガッドサップ族と 2 年間暮らしながら博士論文を書き上げた。M. レイニンガー (M. Leininger) は民族看護学 (Ethnonursing) という文化人類学に基づく研究方法を開発すると同時に、「文化ケア理論」を確立した (Leininger, 1978)。

ケアリングは相手の背景を知り、専門的なケアだけでなく、相手の文化を考慮したケアを提供する必要があることを強調し、一方的なケアリングの提供に警鐘を鳴らした。

2.3　J. ワトソン (J. Watson)

1940 年ウエストバージニア州で生まれ、コロラド大学の学部長などを務め、コロラド大学ヒューマンケアリングセンターを設立し、現在もコロラドに在住しながら、各国をめぐりヒューマンケアリングについて講演している。

J. ワトソン (J. Watson) はケアリング・ヒーリング・モデルの枠組みの核と

して 10 のケア因子をあげており、各国の看護実践でも用いられている (Watson, 1979; Watson, 2005a)。特に、第 8 因子「環境としての看護師」は、看護師自身が環境であることを意識することで、環境を変え、ヒーリングの環境を創造する。

J. ワトソン (J. Watson) は、ケアリングがクライエントの生活にどのような違いを与えるのかを明らかにすることが重要であり、ケアリングのアウトカム (効果 / 結果) を探求することによりケアリングの概念がより発展し、さらに人々に貢献すると考えている (Watson, 2001/2003)。また、21 のケアリング測定用具を紹介した著書 (Watson, 2001/2003) を出版している。

2.4　P. ベナー (P. Benner)

1943 年バージニア州で生まれ、カリフォルニア州で育ち、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の名誉教授である。ドレィフェス・モデルに基づく看護師の臨床技能の習得段階、初心者・新人・一人前・中堅・達人レベルを明らかにした。1984 年の著書のなかでケアリングに関連するパワーの 6 つの本質、変容的 (transformative)、統合的 (integrative)、代弁的 (advocacy)、治癒を促す (healing)、関与 / 肯定 (participative/affirmative ケアリングによる関与によって、看護師自身が肯定される)、問題解決 (problem solving) を挙げている (Benner, 1984/1992; Benner, 2001/2005)。

P. ベナー (P. Benner) はケアリングの重要性として 3 点あげている。1) 人が何をストレスと感じ、それにどう対処しうるかは、ケアリングのありようによって決まる。2) 誰かを、または何かをケアリングすることによって人は状況の内に身を置く。このことを通じて人は問題を発見し、可能な解決法を知り、それを実行することができる。3) 人に援助を与えうる条件と、人からの援助を受け容れうる条件がケアリングによって設定される。同じ行為でも、ケアリングの中でなされる場合とそうでない場合とではまったく異なった結果をもたらすことがある (Benner & Wrubel, 1989; Benner & Wrubel, 1989/1999)。

ケアリング実践は看護実践の核であり、「わざ的 artful」である一方で、相応の知識が必要であり、救命的な実践だと述べている (Benner, 2004/2004)。

3　ケアリングの概念分析

筒井 (1993) の概念分析をもとに、その後出版された著書と研究を加えて概念分析した（図１）(筒井 , 2011b)。ケアリングの先行要件としては、看護師の知識・技術・態度だけでなく、看護師の環境も影響することが明らかになった。バイタルサインの変化などの客観的な基準が明らかになる前に、患者の状態の微妙な変化を正確に感じ取ることができる熟慮した実践が、ケアリングにとっては重要である (Montgomery, 1993/1995)。

ケアリングの定義は、「変化していく個人、集団の状況を認識し、人々の反応・ニードに沿って専門職として関わること」で、「変化する状況」をとらえることが重要である。現在の状況だけでなく、今後予測される状況もとらえながら関わることが必要とされている。関わり方は文化、人々との関係性などによって変化する。

結果は、人々の安寧・自己実現・ヒーリング、看護師の自己実現・癒し（ヒーリング）に加えて、ケアリング環境の創造を示している。在院日数の短縮、疾病構造の複雑化、重症化、医療情報の氾濫など病棟環境は変化しており、看護師の疲弊が研究で明らかにされている。さらに看護師の疲弊が患者の死亡率に及ぼす影響も明らかにされており、看護師の働く環境が注目されている (Aiken, et al., 2002)。昨今の研究により、ケアリングによって組織も変化することが明らかにされており、病棟環境の中にケアリングを根付かせる重要性が指摘され始めた（Carte, et al., 2008；筒井 , 2011b；Emoto et al., 2015)。

クライエントや看護師が、ケアリングによって癒され、リラックスする

先行要件	定義	結果
・看護師としての 　知識 　技術 　態度	変化していく個人または集団の状況を認識し、人々の反応・ニードに沿って専門職としてかかわること	・人々の安寧 ・自己実現 ・ヒーリング
・ケアリング環境		・看護師の自己実現 ・ヒーリング ・ケアリングを支持する環境

図１　ケアリングの概念分析
筒井真優美 (2011b) p.125 の表 4 に加筆

と、免疫グロブリンの数値が上昇し、免疫系の機能が向上する。看護師はクライエントの自己治癒力を、最大限に発揮できるように環境を整えることができる（Achterberg, 1985/1991; Carlson & Shield, 1989/1994; Weil, 1995/1995）。

4　ケアリングの背景

ケアリングが看護学の中で重要視されるようになった背景としては下記のことが考えられる（筒井 , 1997；筒井 , 2011b）。

1. 高度経済成長の中での生活の質が重要視されるようになった。
2. 治療優先の時代からケアリングが重要視されるようになった（MacPherson, 1989; Montgomery, 1993/1995；筒井 , 1993）。高齢化、そして生命を脅かしていた病気の死亡率が減少し、治すことができない慢性の状態が蔓延している。
3. 生命への畏敬の念、各個人における独自性の尊重、環境を尊重するフェミニズムの影響があった（Chinn & Wheeler, 1986）。
4. 看護過程、看護診断が変化する人間の状況をとらえきれるかという疑問が起こった。アメリカ看護師協会は1995年の「看護の社会政策声明」の中で「視点を問題志向に限ることなく、健康と病いに対する、あらゆる範囲の人間の体験と反応に、援助の目を向けること。（略）健康と病いからの回復を支援するケアリングの関係を提供すること」と表明した（小西 , 1996, pp. 179-180）。慢性疾患の増加に伴い、このような看護における視点の変化が重要視された。
5. 看護の理論化が進み、看護の臨床と理論を結びつける概念としてケアリングが重要視された。
6. ヒーリング（癒し）の概念が行動心理学などで取り上げられるようになり、人間のもつ自己治癒力 / 自然治癒力が注目され、ヒーリングによる免疫機能の向上が明らかになった（Achterberg,1985/1991; Carlson & Shield, 1989/1994; Weil, 1995/1995）。看護学でもケアリングがなされると、人は癒されることが明らかになり、ヒーリングをケアリングの結果と

して位置づけている看護学者も多い (Benner, 1984/1992; Montgomery, 1993/1995; 筒井、上田 , 1998; 上田、筒井 , 1998; Watson, 2005)。

7. ベトナム戦争、湾岸戦争で米国の医療スタッフは疲弊し、ケアリングにより相手の方だけでなく医療スタッフもまた、自己実現することが救いとなった。

5　ケアリングの意義

1. 個人にもたらす意義：
ケアリングによって、ケア提供者、ケアを受ける人もともに癒される。

2. 環境にもたらす意義：
ケアリングによって人々が癒されることにより、ケアリング環境が創造される。

3. 学問における意義
1999 年、ハンガリーのブダペストにおいて国連教育科学文化機関 (UNESCO) と国際科学会議 (ISCU) 共催による世界科学会議が開かれ、「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」(ブダペスト宣言) が発表された。この宣言は、21 世紀における科学の責務（コミットメント）として、「知識のための科学 (science for knowledge)」に加え、「平和のための科学 (science for peace)」「開発のための科学 (science for development)」、そして「社会における、社会のための科学 (science in society, science for society)」という 4 つの柱から、科学が人類全体に奉仕すべきものであることを提起した。ケアリングは社会のためにあり、科学においても重要な意義をもつ。

6　看護学における意義

看護学の中心概念は、1978 年に Donaldson & Crowley (1978, p.119) が人間、環境、健康、及び看護であると述べ、1984 年に J. フォーセット (J. Fawcett) が、4 つの概念を定義した。この 4 つの概念に対して、さまざまな看護学者が看護学の中心概念に看護を含めることは同語反復的概念化であると指摘している (Meleis, 2007; Fawcett, 2013)。

表３　看護学の中心概念

発表者	中心概念
Donaldson & Crowley(1978)	人間、環境、健康、及び看護
Fawcett（2013）	人間、環境、健康、及び看護
Leiniger(1990), Watson(1990), Newman, Sime, & Corcoran-Perry (1991), Slevin (2003a, 2003b)	人間、環境、健康、及びケアリング

Leininger（1990）、Watson（1990）、Newman, et al.（1991）、Slevin（2003a, 2003b）らは、同語反復の観点から、人間、健康、環境、そして看護の代わりにケアリングを看護の中心概念として提案している（表 3）。

7　ケアリングの研究

ケアリングの研究は増加し続けており、ケアリングの中心となる理論家 J. ワトソン (J. Watson)、M. レイニンガー (M. Leininger)、P. ベナー (P. Benner) の定義を使用している研究が多い。残念ながら日本と海外文献の研究の質は異なっており、日本ではケアリングの定義や研究方法が不明瞭なものが多い (山内、筒井 , 2011)。

J. ワトソン (J. Watson) の研究はとくに組織の変化に用いられており、2000 年から 2010 年 7 月までの CINAHL Plus with Full Text を Caring & Nursing で検索し、Watson の定義を基にした研究を抽出した結果 32 文献が検索された (Tsutsui, et al., 2011a)。これらの研究結果から、ケアリング環境を創造する 4 つのステップが導き出された。第一は看護師や看護学生はまず自分自身を大切にすること、第二は J. ワトソン (J. Watson) の理論を実践の場に活かすためのセッションに参加すること、第三にケア提供時に看護師の責務を認識することなどにより、第四にチーム全体のケアの質が向上し、ケアリング環境が創造される。これらの研究では入院している方、看護師、医師、医療スタッフの満足度を測定しているものもあったが、いずれも満足度が高かった（Tsutsui, et al., 2011a)。

M. レイニンガー (M. Leininger) の研究は移民や組織文化を中心にしたものが多く (Tsutsui, et al., 2011b)、P. ベナー (P. Benner) に関しては看護師の臨床技能の習得段階 (初心者・新人・一人前・中堅・達人) について研究したものが多い（山内・筒井 , 2011)。

ケアリングは健康と関係しており、相互関係の質がどのように健康を促進するのかを探究することが必要である（Picard & Jones, 2005/2013）。

8　ケアリングの測定用具

M. レイニンガー（M. Leininger）は質的研究によってケアリングの理論構築を行っており、質的研究でケアリングを探究することを示唆している（Leininger, 1991/1995, p.32）。

J. ワトソン（J. Watson）は、ケアリングがさまざまに定義されていることから、測定用具を手掛かりにケアリングの本質に迫るために、『ワトソン 看護におけるケアリングの探究－手がかりとしての測定用具』（Watson, 2001/2003）で、21 の測定用具を紹介している（表４）（宮脇 , 2011, pp. 160-161）。

表４　ケアリングの測定用具

測定用具名、開発年			開発者	測定内容
1	CARE-Q	Caring Assessment Instrument, 1984 （ケアリング・アセスメント質問紙）	Larson, P.	Perceptions of nurse caring behaviors
2	CARE/SAT	Care Satisfaction Questionnaire/ Caring Assessment Instrument, 1993 （ケア満足質問紙）	Larson, P. & Ferketich, S.	Patients satisfaction of nursing care
3	CBI	Caring Behaviors Inventory, 1981, 1983, 1986 （ケアリング行動質問紙）	Wolf, Z.	Words, phrases in nursing literature that represent caring (attitudes and actions)
4	CBA	Caring Behaviors Assessment Tool, 1988 （ケアリング行動アセスメントツール）	Cronin, S. & Harrison, B.	Patient's perceptions of nurse caring behaviors: explicitly attempts to address process
5	CBNS	Caring Behaviors of Nurses Scale, 1988 （看護師のケアリング行動スケジュール）	Hinds, P. S.	Caring behaviors of nurses within inter-subjective human relationship
6	PCB	Professional Caring Behaviors, 1989, 1991 （プロフェッショナルケアリング行動）	Horner, S. D.	Perceptions of nurse caring behaviors
7	CAS	Nyberg Caring Assessment [Attributes] Scale, 1990 ［ナイバーグ・ケアリング・アセスメント（特性）スケール］	Nyberg, J.	Caring attributes of nurses - more subjective human element than behaviors.
8	CAI	Caring Ability Inventory, 1990 （ケアリング能力質問紙）	Nkongho, N. O.	One's ability to care (when involved in relationship)
9	CBC	Caring Behavior Checklist, 1990 （ケアリング行動チェックリスト）	McDaniel, A.	Caring process (external observable)

10	CPC	Client Perception of Caring, 1990 (ケアリングについてのクライアントの認識)	McDaniel, A.	Clients perception of nurse caring (detect both caring and non-caring behaviors as perceived by clients)
11	CAT	Caring Assessment Tool, 1990, 1992 (ケアリング・アセスメント・ツール)	Duffy, J. R.	Patients' perception of nurse caring behaviors
12	CAT-Admin	Caring Assessment Tool-Admin, 1992, 1993 (ケアリング・アセスメント・ツール－管理者版)	Duffy, J. R.	Modified for nurses perception of managers' caring behaviors: relationship between staff nurse satisfaction & nurse managers' caring
13	CAT-edu	Caring Assessment Tool-edu, 2001 (ケアリング・アセスメント・ツール教育版)	Duffy, J. R.	Educational version of CAT. focus on assessing students' perceptions of caring
14	PGCIS	Peer Group Caring Interaction Scale, 1993, 1998 (仲間集団のケアリング相互作用スケール)	Hughes, L.	Organizational climate of caring perceived among nursing student peer group
15	OCCQ	Organizational Climate for Caring Questionnaire, 1993 (ケアリングの組織風土質問紙)	Hughes, L.	Student perceived organizational climate for caring within context of faculty-student interactions
16	CES	Caring Efficacy Scale, 1995, 1997 (ケアリング効力スケール)	Coates, C.	Assess conviction or belief in one's ability to express a caring orientation, develop caring relationship with patients
17	HCI	Holistic Caring Inventory, 1988, 1996 (ホリスティック・ケアリング質問紙)	Latham, C. P.	Humanistic caring : patient' perceptions of caring
18	CDI	Caring Dimensions Inventory, 1997 (ケアリング次元質問紙)	Watson, R. & Lea, A.	Perceptions of caring from large sample of nurses
19	CAPSTI	Caring Attributes, Professional Self-Concept Technological Influence Scale, 1999 (ケアリング特性 , 専門職的自己概念とテクノロジーの影響スケール)	Arthur, P., et al	Multidimensional construct of caring internationally
20	CPS	Caring Professional Scale, 2000a, 2000b (ケアリング専門性スケール)	Swanson, K.	Consumers rating of health care providers on their practice relationship
21	MHCSNCI	Methodist Health Care System Nurse Caring Instrument, 2000 (メソジスト・ヘルスケアシステムの看護師によるケアリング測定用具)	Shepherd, M., Rude, M., & Sherwood, G.	Valid and reliable instrument of nurses' caring : To operation-alize caring as a core concept in patient satisfaction and outcome based research on nurses' caring

“Caring behaviors Inventory（CBI)”、“Caring behaviors assessment tool（CBA)”、“Nyberg caring assessment [attributes] scale（CAS)”、“Caring assessment tool（CAT)”、“Caring efficacy scale（CES)” は、J. ワトソン（J. Watson）のケアリング理論をもとに作成されている。また、J. ワトソン（J. Watson）は測定用具の項目を質的研究のインタビューガイドに使用することを推奨している。

9　ケアリングの実践

クライエントと看護師におけるケアリングのとらえ方にはずれがある（Komorita, et al., 1991; Von Essen, 1991）。看護師は信頼関係や温かさを重要ととらえ、クライエントは身体的なケア、すなわち専門的な技術と知識が最も重要だと考えていた（Gaut, 1983; Kuhse, 1997/2000; Montgomery, 1993/1995）。

M. メイヤロフ（M. Mayeroff）はケア提供者の能力がケアリングには重要であり、P. ベナー（P. Benner）, C. L. モンゴメリー（C. L. Montgomery）なども看護師の専門的知識・技術があって、初めて看護師としてのケアリングが成り立つことを強調している。図１の概念分析でも、態度だけでなく、知識・技術が必要なことが示唆された。

また、ケア提供者にはその関わりを支持する環境が必要であり、施設側は、自分たちがケア提供に影響があることを認識することが大切である（Montgomery, 1993/1995）。

ケア提供者は、人々にケアを受け入れてもらうことによってケアリングが可能になる。根拠に基づくケアであったとしても、それを人々が受け入れなければ、ケア行為は実現できないのである（丹木 , 2016）。

ケアリングは人々から必要とされるだけではなく、ケア提供者自身のためにも、人々を必要とするのである（葛西 , 2006）。ケアリングによって、相手の成長、健康、安寧、癒しを目指すが、同時に他者へのケアリングを通してケア提供者も成長し、癒されるのである（葛西 , 2006）。

10　ケアリングの教育

教育学者のN. ノディングス (N. Noddings) が明らかにした道徳教育における四つの主要な構成要因であるモデリング、対話、実践、確証 (Noddings, 1984/1997, 1998/2006) がケアリング教育の中心となっている。

Bevis & Watson (1989/1999)「ケアリングカリキュラム」はヒューマンケアリング理論を基に、ノディングス (N. Noddings) のモデリング、対話、実践、確証について論じている。ケアリングカリキュラムは行動主義のパラダイムとは異なり、状況に応じた学習を大切にする。

ケアリングが実施されるためには、ケア提供者が師長や医師などの医療スタッフに支持されることが重要であり、学生もまた実習時に、教員や病棟環境にサポートされること、すなわち学生たちが気にかけられていると感じることが大事である。ケアリングを学ぶには、自ら十分ケアされることが不可欠なのである (Smith, 1992/2000)。

11　ケアリングの課題

ケアリングには信頼関係、やさしさなどだけではなく、看護師としての知識・技術が必須であることは明確にされてきた (筒井 , 2011b)。

ケアリングの先行要件として重要視され始めてきたのが、環境である。支持される環境があって、ケアリングが可能になり、ケアリングによって、環境も変化する。また、看護師自身が環境であることを認識して行動すると、環境そのものも変化する (筒井 , 2011b; 山内、筒井 , 2011)。

今後は環境がケア提供者を支援するためには、何が必要なのかを探求することが課題である。六つの小児病棟及び一つの小児科外来におけるケアリング環境を創造するためのアクションリサーチ (筒井 , 2010; 筒井 , 2011a) では、ケア提供者の安心かつ安全な環境が重要であった (伊藤ら , 2011; 岩﨑ら , 2011; 甲斐ら , 2011; 尾高ら , 2011; 太田ら , 2011; 長田ら , 2013; Emoto, et al., 2011; 江本ら , 2015; Emoto et al., 2015; Tsutsui et al., 2016)。

ケア提供者が支援される環境にいなければケアリングは難しく、癒されていなければ人を癒すことは難しい。医療環境は在院日数の短縮、疾病構造の複雑化、重症化と厳しい状況であるが、このなかでどのような医療環

境を創造するかが課題である（筒井 , 2011a; 筒井 , 2011b）。

参考文献

伊藤久美、大内暁子、深谷基裕、江本リナ、草柳浩子他（2011）「ペルテス病の子どもへ『見通しのつく説明』をおこなうことによる医療者の変化」『日本小児看護学会誌』20(2), pp. 18-24.
岩﨑美和、草柳浩子、西田志穂、平山恵子、岩尾弓子他（2011）「乳幼児の「泣き」に対する看護師の意識とケアの変化―2 つの小児専門の病棟におけるアクションリサーチ」『日本小児看護学会誌』20(2), pp. 25-32.
上田紀行、筒井真優美（1998）「癒しのわざとは何か <2>」『看護展望』23(5), pp. 68-74.
江本リナ、筒井真優美、川名るり（2015）「小児看護においてケアを提供する上で課題と捉えた状況とその改善の試み」『小児保健研究』74(6), pp. 930-938.
太田有美、川名るり、鶴巻香奈子、平山恵子、朝倉美奈子他（2011）「子どもと大人の混合病棟にいる看護師の遊びに対する意識とケアの変化をおこすアクションリサーチ」『日本小児看護学会誌』20(1), pp. 78-85.
長田暁子、江本リナ、橋本美穂、川名るり、草柳浩子他（2013）「NICU で在宅医療を必要とする子どもの退院調整を行う看護師の困難感に関するアクションリサーチ」『日本小児看護学会誌』22(2), pp. 48-53.
尾高大輔、川名るり、山内朋子、江本リナ、平山恵子他（2011）「子どもや家族の言動による傷つき体験を看護師が語ることに対するアクションリサーチ」『日本小児看護学会誌』20(2), pp. 49-56.
甲斐恭子、佐藤朝美、草柳浩子、川名るり、筒井真優美他（2011）「重症心身障害児者とその家族への外来看護師の思いの変化―アクションリサーチを通して」『日本小児看護学会誌』20(1), pp. 70-77.
葛西康子（2006）『青年期を生きる精神障害者へのケアリング』北海道大学出版会 .
小西恵美子（1996）「新しい看護とは」『看護』48(5), pp. 178-182.
丹木博一（2016）『命の生成とケアリング』ナカニシヤ出版 .
筒井真優美（1993）「ケア / ケアリングの概念」『看護研究』26(1), pp. 2-13.
筒井真優美（1997）「問題志向からケア / ケアリングへ」『看護技術』43(11), pp. 97-100.
筒井真優美、上田紀行（1998）「癒しのわざとは何か <1>」『看護展望』23(4), pp. 68-74.
筒井真優美編（2010）『アクションリサーチ入門』ライフサポート社 .
筒井真優美（2011a）「小児看護におけるケアリングと癒しの環境創造―アクションリサーチを用いて」文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 B) 研究成果報告書.
筒井真優美（2011b）「看護学におけるケアリングの現在」『看護研究』44(2), pp. 115-128.
筒井真優美編著（2015a）『看護理論―看護理論 20 の理解と実践への応用 改訂第 2 版』南江堂 .
筒井真優美編（2015b）『看護理論家の業績と理論評価』医学書院 .
宮脇美保子（2011）「ケアリングの測定用具」『看護研究』44(2), pp. 159-171.
山内朋子、筒井真優美（2011）「ケアリングの研究動向」『看護研究』44(2), pp. 129-148.

Achterberg, J. (1985)　井上哲彰訳（1991）『自己治癒力』日本教文社 .
Aiken, L. H., Clarke, S. P., Slone, D. M., Sochalski, J., & Silber, J. H.（2002）“Hospital nurse

staffing and patient mortality, nurse burnout, and job dissatisfaction", *Journal of American Medical Association*. 288(16), pp. 1987-1993.

Benner, P.（1984）　井部俊子、井村真澄、上泉和子訳（1992）『ベナー看護論－達人ナースの卓越性とパワー』医学書院 .

Benner, P. & Wrubel, J.（1989）*The primacy of caring: Stress and coping in health and illness*. Menlo Park, CA: Addison-Wesley Publishing Company.

Benner, P. & Wrubel, J.（1989）　難波卓志訳（1999）『ベナー / ルーベル　現象学的人間論と看護』医学書院 .

Benner, P.（2001）　井部俊子監訳（2005）『ベナー看護論　新訳版－初心者から達人へ』医学書院 .

Benner, P. 編著（2004）　早野真佐子訳（2004）『エキスパートナースとの対話』昭林社 .

Bevis, E. O. & Watson, J.（1989）　安酸史子監訳（1999）『ケアリングカリキュラム－看護教育の新しいパラダイム』医学書院 .

Carlson, R. & Shield, B.（1989）　上野圭一（1994）『癒しのメッセージ』春秋社.

Carte, L. C., Nelson, J. L., Sievers, B. A., Dukek, S. L., Pipe, T. B., et al.（2008）"Exploring a culture of caring ", *Nursing Administration Quarterly*. 32(1), pp. 57-63.

Chinn, P. L. & Wheeler, C. E.（1986）「フェミニズムと看護」『看護』38(1), pp. 115-124.

Donaldson, S. K. & Crowley, D. M. (1978) "The discipline of nursing", *Nursing Outlook*. 26(2), pp. 113-120.

Emoto, R., Tsutsui, M., Kawana, R., Hirayama, K., & Ｍ atsumoto, S. (2011, June) *Co-creation of carative environment to enhance child, family, and clinical staff care*. International Hiroshima Conference on Caring and Peace.

Emoto, R., Tsutsui, M., & Kawana, R. (2015) "A model to create a caring and healing environment for nurses in child and family nursing", *International Journal for Human Caring*. 19(1), pp. 8-12.

Fawcett, J. (2013) *Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.)*. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company.

Gaut, D. A. (1983) "Development of a theoretically adequate description of caring", *Western Journal of Nursing Research*, 5(4), pp. 313-324.

Komorita, N. I., Doehring, K. M., & Hirchert, P. W.(1991) "Perceptions of caring by nurse educators", *Journal of Nursing Education*. 30(1), pp. 23-29.

Kuhse, H.（1997）　竹内徹・村上弥生監訳（2000）『ケアリング－看護婦・女性・倫理』メディカ出版 .

Leininger, M. M. ed. (1978) *Transcultural nursing: Concepts, Theories, and Practice*. New York: John Wiley & Sons. (Reprinted in 1994 by Greyden Press, Columbus, OH.)

Leininger, M.M. (1990) "Historic and epistemologic dimensions of care and caring with future directions", In J. S. Stevenson & T. Tripp-Reimer (Eds.), *Knowledge about care and caring: State of the art and future developments*. Kansas City, MO: American Academy of Nursing, pp. 19-31.

Leininger, M. M. ed.（1991）　稲岡文昭監訳（1995）『レイニンガー看護論－文化ケアの多様性と普遍性』医学書院 .

MacPherson, K. L. (1989) "A new perspective on nursing and caring in corporate context", *Advance in Nursing Science*. 11(4), pp. 32-39.

Mayeroff, M.（1971）田村真、向野宣之訳（1987）『ケアの本質－生きることの意味』ゆみる出版 .

Meleis, A. I.（2007）*Theoretical nursing: Development and progress (5th ed.)*. Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins.

Montgomery, C. L.（1993）　神郡博、濱畑章子訳（1995）『ケアリングの理論と実践－コミュニケーションによる癒し』医学書院 .

Newman, M. A., Sime, A. M. , & Corcoran-Perry, S. A. (1991) “The focus of the discipline of nursing” *Advances in Nursing Science*. 14(1), pp. 1-6.

Noddings, N.（1984） 立山善康、林泰成、清水重樹、宮崎宏志、新茂之訳（1997）『ケアリング 倫理と道徳の教育－女性の観点から』晃洋書房 .

Noddings, N.（1998） 宮寺晃夫監訳（2006）『教育の哲学 ソクラテスから＜ケアリング＞まで』世界思想社 .

Nyberg, J. (1990) “Theoretic explorations of human care and economics: Foundations of nursing administration practice”, *Advances in Nursing Science*. 13(1), pp. 74-84.

Picard, C. & Jones, D. ed.（2005） 遠藤恵美子監訳（2013）『ケアリング プラクシス』すぴか書房 .

Slevin, O. (2003a) “An epistemology of nursing: Ways of knowing and being”, In L. Basford & O. Slevin, *Theory and practice of nursing: An integrated approach to caring practice (2nd ed.)*, UK: Ashford Colour Press Ltd, pp. 143-171.

Slevin, O. (2003b) “Nursing model and theories: Major contributions”, In L. Basford & O. Slevin, *Theory and practice of nursing: An integrated approach to caring practice (2nd ed.)*, UK: Ashford Colour Press Ltd, pp. 255-280.

Smith, P. (1992) 武田麻子、前田泰樹監訳（2000）『感情労働としての看護』ゆみる出版 .

Tsutsui, M., Emoto, R., Kawana, R., Hirayama, K., M atsumoto, S. & Yamauchi, T. (2011a, May). *An environment for caring created by Watson’s Caring Theory*. ICN 2011.

Tsutsui, M., Emoto, R., Kawana, R., Hirayama, K., M atsumoto, S. & Yamauchi, T. (2011 b, June). *Characteristics of studies based on Leininger’s Caring Theory*. International Hiroshima Conference on Caring and Peace.

Tsutsui, M., Emoto, R. & Watson, J. (2016) “Japanese caritas for peace and change”, In S. M. Lee, P. A. Palmieri, & J.Watson (Eds.), *Global Advances in Human Caring Literacy*. NY: Springer Publishing Company, pp. 209-216.

Von Essen, L. (1991). “Patient and staff perceptions of caring: Review and replication”, *Journal of Advanced Nursing*. 16(11), pp. 1363-1374.

Watson, J. (1979) *Nursing : The Philosophy and Science of Caring*. Boston: Little Brown. (Reprinted. 1985/88. Colorado Assoc. Univ. Press.)

Watson, J. (1990) “Caring knowledge and informed moral passion”, *Advances in Nursing Science*. 13(1), pp. 15-24.

Watson, J.（2001） 筒井真優美監訳（2003）『ワトソン 看護におけるケアリングの探究－手がかりとしての測定用具』日本看護協会出版会 .

Watson, J. (2005) “An overview of Watson’s theory of Human Caring as guide to transforming practice: Examples from the field.”『日本赤十字看護大学紀要』19, pp. 65-77.

Weil, A（1995） 上野圭一 (1995)『癒す心、治る力－自発的治癒とは何か－』角川書店 .

〔受付日 2018. 7. 22〕